



カメラ：コオリ



カメラ：コオリ

7月29日サービスハウスアネックスで、納涼祭を開催いたしました。投げ輪、ダーツ、ヨーヨー釣りなどのゲーム、かき氷、綿菓子を楽しみました。

行事写真

サービスハウス通信

第9号

H23年8月5日

発行

社会福祉法人東光会
サービスハウス 事務局

TEL084-941-5255



なかなか入らないね



エース登場 ひとし、投げます！



釣れたよ！



釣れたね！



カメラ：コオリ



今年は梅雨明けが早く、暑い日々が続きます。このサービスハウス通信が、第一号を昨年八月に発行して一年が過ぎました。なかなか毎月発行とはいきませんが、これからも続けたいと思います。今回から、戦争中のシベリアでの生活を掲載いたします。



かき氷、みんなで食べるとおいしいね...



アネックスの屋上でかぼちゃが大きくなっています



シベリヤへ送られて



郡 誠司

ここは、満州国。挺身大隊を乗せた無蓋列車は夜を通して走り、チチハル駅に昼前に着いていたが、ピタリと止まってしまったままになった。野営をした翌日終戦の報が届いた。「昭和20・8・15」のことである。翌、三日程して我々は「軍服を着た丸腰の兵」となっていた。約一ヶ月倉庫で無意味な生活を送っていたが、九月に入っついにソ軍命令が出され、「作業隊を編成せよ」であった。装具作りに忙しい日を送る。

* 出発 *



ここからは、ソ軍兵士の警戒のもと、郊外の小駅まで小走りする速さで連れてこられた。自分では、「これで捕虜になったんだな」と意識させられていた。

この小駅がソ軍の基地であるらしい。我が中隊はその夜は野営になっ

た。携行する米で飯盒の飯炊きである。サバ缶で腹を満たした。水筒に湯を沸かして置く。米は今夜で終わってしまう。翌日からは乾パンになる。

翌日、ソ連邦の貨物列車が入って来ていた。長い長い連結である。その一面に、我が分隊が乗り込む。中央扉の場所は、広く前後二段の積敷が出来ていて、上下五名づつ二十名が乗っていた。装具以外に毛布一枚が与えられていた。長い列車は、ゴトンと動き出していた。途中、新南溝というループ線を喘ぎながら通過してハイラル駅を通過する。ソ軍兵が多くなつて見えていた。我々に向かつて手の平を首に向けて、首切りのゼスチャーをして見せる。ここでは女性兵士の姿も多く見かけられた。やがて、国境の町満州里駅に到着する。しばらく停車していたが、いよいよ国境線を越える。一定の幅が不毛の地として保たれていた。これから先はソ連邦路線になる。どこへ行くのか皆目わからない。

列車は一昼夜走り通している。前方大きな駅に止まると、給水・貯炭に時間を費やしている。この時を見計らって兵隊の青天井用便の時間になる。さすがに、夜間は丸腰の兵には毛布一枚では寒かった。携行の乾パンも持っている限り食べつくして



行った。「停車、下車用意」がかかった。チチハルを出てから十日目になる。

この地が、エニセー河沿いのクラスノヤルスクであった。満州里から、二千六百kmという。

次回は、ラーゲリ(収容所)の様子です。



私の いちばん！
Nさんの詩です。

大空にかかった虹の橋
渡ってみたいね
きっと七色に染まるでしょう
もしかして
まばゆいばかりかもね
それでは夢がなさすぎる